

「 山陽新聞の題字を書いた瀬戸内市の書道家 大原桂南 」

2024年11月28日～2025年3月2日

於 瀬戸内市民図書館
協力 瀬戸内市文化観光課／赤枝美智子

大原桂南は、明治13年（1880）～昭和36年（1961）、敬蔵の次男として下笠加に生まれ、名は専次郎、号（※1）を桂南、別号を董明・桂山。桂南とは師の加納星南と桂山に由来しています。

書は岡山県師範学校（岡山大学教育学部の前身）在学中に難波香城に学び、更に磯山天香・加納星南に師事しました。卒業後、邑久高等小学校などの勤務を歴任。生涯を書道教育に尽くし門下生は1万人を超え、大正11年黄微書道会を創設し会長となりました。

また、日下部鳴鶴・近藤雪竹の教えを受ける一方、中国古文字を学び「金石法帖」（※2）の研究をし、独特の書風を樹立しました。又、漢詩にも優れ2千余首を遺すほか、記念碑の揮毫も多く、山陽新聞の題字は有名です。岡山県文化賞、山陽新聞社賞などを受賞し、作品は3万点にも及び、格調ある書は各所に数多く残されています。

大正7年（1918）第1回全国習字中等教員会を東京文理科大学で開催し、嘉納治五郎（柔道家）学長を会長に自らは議長として会の運営に奔走しました。

大正8年（1919）中橋文部大臣による「毛筆廃止論」が起こった際には、反対運動の為上京、井原雲涯等と共に活動し、書道界あげての反対（陳情）運動もあって廃止論は止まりました。

上記2つの事柄は、地方に留まらず中央（東京）でも活躍したことを示しています。

また、書を練習するより、まず墨の磨り方を練習するよう指導したというエピソードもあり、何事も基本を大切にされた姿勢が感じられます。

大原桂南は、色々な書体（楷書体・行書体・隷書体など）（※3）を書きました。一般に作品を一つの書体で書くのが通例です。桂南は、一つの書体で書く作品とは別に、各書体を取り混ぜて書く作品（破体書き）を考案しました。この破体書きにより、独自の書風を確立し、書道界に造形芸術の文化を樹立しました。

本展では岡山県を代表する書道家である大原桂南の、作品や市内で確認できた石碑の分布図を公開展示しております。貴重な作品を通して大原桂南の書の世界に親しんでいただければ幸いです。

※1 雅号に添えた称号… 仙史：40歳代、山人：50歳代、道人：60歳代、居士：70歳代
年齢書き：80歳代（特に誕生日11/9～歿日前日11/18：83歳書らしい）

※2 金石法帖 …… 金石とは、古銅器・碑碣（四角と丸い石）・磨崖などに刻まれている文字の総称。法帖とは、名跡を石や木に刻したのちに、拓本により、本仕立てにしたもの。

※3 書体の変遷… 中国 甲骨文字（甲骨文）→金文（青銅器）→篆書体→隷書体→楷書体→行書体
→草書体→日本 平仮名（片仮名は楷書の一部より）

【諸説あり】

◎清 虚 (せいきょ)

【釈 文】 「心が清らかで汚れが全くないなどの神聖な意味」を表現している作品である。

【引首印】 いんしゅいん 心 こころ 自 おの 閑 ずからかんなり (自ら心静かに過ごす意味が

へんがく 扁額 (横書き作品)

あり、作品の雰囲気を表す。)

【落 款】 らっかん 七十三翁 おきな 桂南居士 こじ (73歳の老人)

【姓名印】 せいめいいん 専璽 (専次郎の専。璽は印、玉製の印)

【雅号印】 がごういん 桂南



※【引首印・姓名印・雅号印】の3つの印を、さんかひとくみ 三顆一組 か という。顆は印材や印影 (押した印文字) を数えるときに使う。姓名印・雅号印を落款印という。落款とは、らっかん 年号・ためが 年齢・号・為書き等をいう。

◎菊華三咲 (きっかさんしょう)

【釈 文】 「人を引き付ける魅力がある人は、多くの幸運を引き寄せる」という言葉を表現した作品である。咲は笑の本字 ほんじ でわらう。日本では国字 こくじ でさく。花が開く。

【引首印】 しょうこ 尚古 (昔の文化や芸術思想などを尊いものと

して扱う意味があり、作品の雰囲気を表す。)

【落 款】 七十七翁 桂南 (77歳の老人)

【雅号印】 桂南



◎敷和氣 (気・古字) (わきをしく)

【釈 文】 「和暖の気を敷き及ぼす」という意味である。

【引首印】 せいげん 精玄 (精は心身の力、玄は奥深い道理など、
作品のみなざる力の雰囲気を表す。)

【落 款】 ぶんいわく 文曰 敷和氣 桂南居士 こじ

【姓名印】 原専 (大原専次郎の原と専を印としている。)

【雅号印】 桂南



◎高山景行（こうざんけいこう）

【釈文】 「徳が高く品性や行いが立派な人を例えた」作品である。

【引首印】 尚古（昔の文化や芸術思考などを尊いものとして扱う意味があり、作品の雰囲気を表す。）

【落款】 八十一翁 桂南（81歳の老人）

【雅号印】 桂南



◎龍鳳高翔天日表雲承天高致嘉祥

（りゅうほうはこうしょうしてんじつあらわれ、くもはうけてんたかくかしょうをいたす）

【釈文】 龍鳳は高翔し天日表れ、雲は承け天高く嘉祥を致す。
「龍も鳳凰も共に天高く昇る姿はおめでたい。更に太陽が出て雲が湧き瑞祥である。」という言葉を表した書である。吉祥の語句。

【引首印】 精玄（精は心身の力、玄は奥深い道理など、みなぎる力のある作品を表す。）

【落款】 七十三翁 桂南居士（73歳の老人）

【雅号印】 桂南



◎南山之壽（なんざんのじゅ）

【釈文】 「長寿を祝う言葉、事業がいつまでも栄え続くことの例え」を表現した作品である。『詩経』の中の「小雅・天保」による。南山は中国の長安（現在の西安）の南にある終南山のこと。大きい山なので崩壊しないという意味である。

【引首印】 師古（昔の制度や学問にのっとる。『書経』の「説命」に記載。作品の雰囲気を表す。）

【落款】 壬辰・正月 桂南居士 昭和27年73歳

【雅号印】 桂南

